

平成 23 年 6 月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成 23 年 6 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を取りまとめたので、その概要を公表します。

【資料】

[平成 23 年 6 月の熱中症による救急搬送状況](#)



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：長谷川 伊藤 渡邊(俊)
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成23年6月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成23年6月中の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 気象

平成23年6月は、上旬から中旬にかけては、梅雨前線が九州から本州の南岸に停滞し、太平洋高気圧は西に平年より強く張り出しました。下旬には太平洋高気圧は本州の南で強まり、梅雨前線は日本海から北陸、東北地方まで北上して停滞し、北日本では雲が広がりやすかったが、東・西日本太平洋側では晴れて所々で猛暑となりました。月平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高く、北・東・西日本でも月平均気温は高くなりました。なお、6月下旬の平均気温は、東・西日本では統計を開始した1961年以降、最も高い値を更新しました。（気象庁「6月の天候」より）

2 ポイント

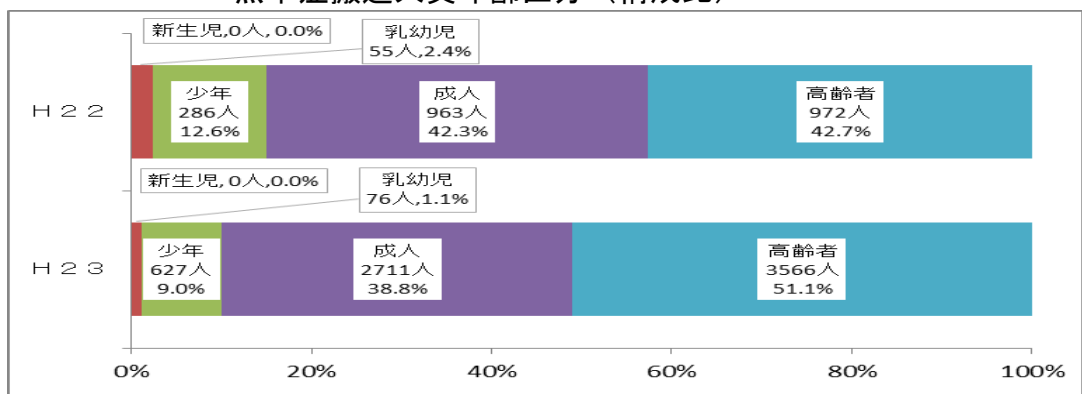
(1) 総数

平成23年6月の全国における熱中症による救急搬送人員は6,980人でした。これは、平成22年6月の熱中症による救急搬送人員2,276人の3.07倍となっています。（集計1、集計2、集計3参照）

(2) 内訳

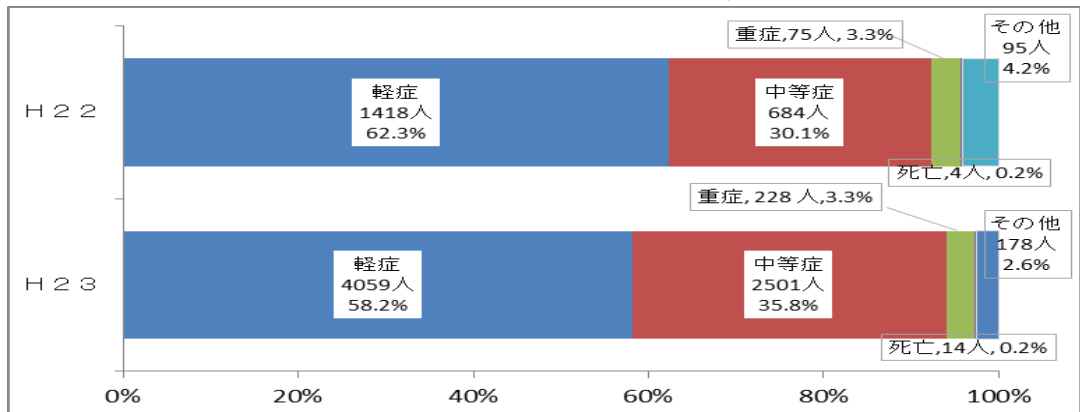
- ① 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65歳以上）が3,566人（51.1%）と最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）2,711人（38.8%）、少年（7歳以上18歳未満）627人（9.0%）、乳幼児（生後28日以上7歳未満）76人（1.1%）の順となっています。（集計1参照）

熱中症搬送人員年齢区分（構成比）



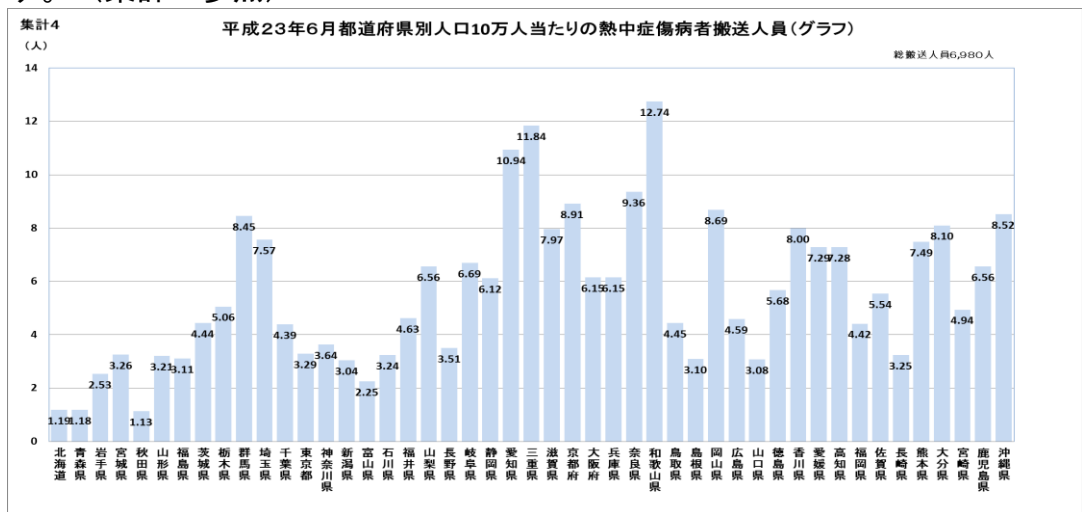
- ② 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く4,059人（58.2%）、次いで中等症2,501人（35.8%）、重症228人（3.3%）、死亡14人（0.2%）の順となっています。（集計1参照）

熱中症搬送人員初診時傷病程度（構成比）



- ※ 軽 症：入院を必要としないもの
- 中等症：重症または軽症以外のもの
- 重 症：3週間の入院加療を必要とするもの以上
- 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

- ③ 都道府県別人口10万人当たりの熱中症搬送人員は、和歌山県が最も多く12.74人であり、次いで三重県11.84人、愛知県10.94人の順となっています。（集計4参照）



3 その他

- ・ 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
- ・ 消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症に関する情報及び毎週、熱中症による救急搬送状況の速報値を提供しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html